

NERIMA ART MUSEUM NEWS

2024

練馬区立美術館 ニュース

28

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM



注目すべき3つの個展を連続開催 三島喜美代、平田晃久、野見山暁治

CONTENTS

- 03 ——— 館長あいさつ
- 04 ——— MUSEUM CALENDAR
- 06 ——— 展覧会紹介
- 10 ——— 新収蔵品紹介
- 16 ——— 教育普及事業のご案内
- 18 ——— アート de ねりまち
- 20 ——— 公募展のご案内
- 21 ——— 貸出施設について
- 22 ——— 施設案内
- 23 ——— 交通案内

2024年度の練馬区立美術館は、注目すべき3人の美術家・建築家の作品世界を、いずれも個展形式により紹介してまいります。いよいよ美術館の再整備に向けた収蔵庫移転の準備に入るため、今年度をもって既存の建物での企画展とコレクション展は当面中断となります。ぜひこの機会にご来館のうえ、当館でしかご覧いただけない充実した3つの展覧会をご堪能ください。

最初の展覧会は、5月から始まる「三島喜美代—未来への記憶」展です。現代美術家として70年の創作キャリアを誇る三島は、近年国内外からの評価がいつそう高まっており、本展は東京の美術館における初の個展となります。20×10メートルを超える圧倒的な規模によるインスタレーション、陶によって制作された新聞や空き缶を模したオブジェ、それらの作品のベースとなった初期平面作品など三島作品の全貌を紹介します。

続けて当館初の建築展として、「平田晃久—人間の波打ちぎわ」展を開催します。平田は「からまりしろ」と自ら呼ぶ設計思想に基づき、自然や社会といった多様な存在が有機的に絡まりあう建築のあり方を模索している建築家で、新しい練馬区立美術館・貫井図書館の設計を担っています。本展では、当館の設計を含め平田が現在進めているプロジェクトと、これまでの建築活動を3つのキーワードで分類し、それぞれの展示室に展開することで、未来の建築を予感させる「からまる」世界へと誘います。

最後を飾るのは、昨年ご逝去された練馬区ゆかりの画家・野見山暁治の追悼展です。名誉区民でもあった野見山は練馬区内にアトリエを構えていた関係もあって、当館の野見山コレクションは質量ともに傑出した存在となっています。「追悼 野見山暁治」展(仮称)は、1930年代から2020年代までの絵画や関連資料等約70点を当館収蔵品を中心に厳選し、野見山の長きにわたる制作活動の一端をご覧いただけます。

上記3本の展覧会に加え、ワークショップや鑑賞プログラム、講演会のほか、学校との連携プログラム、まちと美術館をつなぐ「アート de ねりまち」事業などを幅広く実施します。さらに年度末には、トークやミニコンサートからなる「トーク・トーク 40年のコレクションと展覧会」(仮称)を多様なゲストを迎えて連続的に実施し、過去40年にわたる練馬区立美術館の活動を振り返るとともに、リニューアル後の美術館の未来を展望します。

2024年4月
練馬区立美術館長 伊東正伸

MUSEUM CALENDAR

2024	4		
	5		第70回 練馬区美術家協会展 2024年4月29日[月・祝] — 5月6日[月・休]
	6	三島喜美代 — 未来への記憶 展 2024年5月19日[日] — 7月7日[日]	1
	7		
	8	平田晃久 — 人間の波打ちぎわ 展 2024年7月28日[日] — 9月23日[月・休]	2
	9		
	10		
	11	追悼 野見山暁治 展 (仮) 2024年10月6日[日] — 12月25日[水]	3
	12		
2025	1		
	2		第56回練馬区民美術展 (前期) 2025年2月13日[木] — 18日[火]
	3	トーク・トーク 40年のコレクションと展覧会 (仮) 2025年3月7日[金] — 3月30日[日]	4
	4		第56回練馬区民美術展 (後期) 2025年2月23日[日・祝] — 28日[金]

【美術館再整備に伴うお知らせ】 美術館・貴井図書館の全面リニューアルに合わせて3階企画展示室を使用して収蔵作品の整理を行います。そのため、2024年10月以降の展覧会は、2階展示室で開催予定です。なお、区民ギャラリー、創作室は、2025年後半の工事着手まで利用できます。詳細は、後日、当館ホームページ等によりお知らせいたします。

三島喜美代 — 未来への記憶

会期：5月19日[日] — 7月7日[日]

新聞やチラシなどの印刷物を陶を用いて立体化するユニークな作品により、国際的にも高く評価されている三島喜美代(1932-)の個展を開催します。

三島は、1960年代には印刷物などをコラージュした油彩画で注目され、70年頃からは一貫して、シルクスクリーンで印刷物の文字を陶に転写して焼成する立体作品に取り組んできました。そこには、情報洪水の中で埋没する不安感や恐怖感が表現されています。また、情報からゴミへと問題意識を移していくと、陶による空き缶を模した作品やゴミによるオブジェを制作し、近年は廃棄物を取り込んだ制作も行っています。

本展は、70年にわたる三島の創作の軌跡を概観し、その作品世界の魅力と実像に迫ろうとするものです。情報化社会や大量消費社会へ厳しい視線を投げかけつつも、情報やゴミを異化作用を通して造形表現へと転化させた三島作品は、社会の現実を見つめ、日々の暮らしの中から遊び心をもって生み出されてきました。初期の絵画から多様な陶による作品、環境に配慮した近作までの主要作品が並ぶなか、本展はハイライトとして三島の代表作であり最大規模のインスタレーション作品《20世紀の記憶》を展示します。床に大量の耐火レンガ・ブロックをぎっしりと敷き詰め、その表面に20世紀の100年間から抜き出した新聞記事を転写したこの作品は、前世紀の記憶の断片が視覚化されるとともに、時代に向き合った三島自身の記憶が刻まれているように思われます。三島が作品に刻印した20世紀の記憶を、来るべき未来への記憶として改めて受け止めていただければ幸いです。

観覧料：一般1,000円



左 _____ 《Package '78》(部分) 1978年 陶・転写・彩色 滋賀県立陶芸の森 陶芸館
 中 _____ 《Work 17-C》2017年 陶・転写・彩色 ポーラ美術館 写真撮影：中川忠明 写真提供：仲居
 右 _____ 《20世紀の記憶》(部分) 1984-2013年 耐火レンガに印刷 個人蔵
 写真撮影：小川重雄 写真提供：美術資料センター株式会社

平田晃久 — 人間の波打ちぎわ

会期：7月28日[日] — 9月23日[月・休]

建築家・平田晃久(1971-)の建築世界を紹介する展覧会です。「建築とは〈からまりしろ〉をつくることである」というコンセプトは、平田の建築に一貫しています。平田の造語である〈からまりしろ〉とは、はっきりと形作られる空間領域とは異なり、「ふわふわとした隙間の錯綜」、つまりはあらゆる物質の傍らとも言える領域の重なりを指します。それは人間世界に限ったことではなく、植物、動物、異なる時空の文化なども含んだ広義での生命体との共有可能性を探る試みでもあり、人間が狭い意味での「人間」から自由になる未来に向けた試みでもあります。

平田のコンセプトが形となった公共建築としては、2022年に日本建築学会賞を受賞した「太田市美術館・図書館」(2017年)が代表されます。また複数の住居や商業施設なども手掛け、平田の哲学的理論と自然や生命への憧憬が反映された独創性あふれる空間を現出しています。

このたび、これらの代表的な建築作品群に、練馬区立美術館も新しく加わることとなりました。新しく生まれ変わる美術館は、図書館と融合する文化複合施設として新たなスタートを切ります。その建築コンセプトは、「21世紀の富士塚／アートの雲／本の山」。練馬に古くから存在する「富士塚」をテーマに、「美術と本」を街や人々とつなぐ場として構想されました。

本展では、これまでの平田建築から新しい練馬区立美術館をはじめ、現在進行中のプロジェクト、そして未来に向けた建築の可能性を展望します。

観覧料：一般1,000円



左 _____ 《Global Bowl》2021年 ©ToLoLo studio
 右 _____ 《Tree-ness House》2017年 ©Vincent Hecht

会期：10月6日[日] — 12月25日[水]

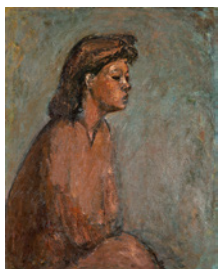
2023年6月に逝去した練馬区ゆかりの画家・野見山暁治(1920-2023)の業績を、当館のコレクションを中心に振り返る展覧会を開催します。

福岡県の炭坑経営者の家庭に育った野見山は、東京美術学校を繰り上げ卒業して旧満州に出征しました。終戦後、故郷の炭坑や骸骨などの具象的なイメージを描く時期を経て、フランスに留学。在仏中に安井賞を受賞し、その後、徐々に抽象的な表現へと変化します。帰国後、しばらくして練馬区にアトリエを構え、福岡県糸島市とともに制作の拠点としました。また野見山は、母校の東京藝術大学教授として学生の指導と入試改革に力を注ぐとともに、自身の戦争体験から、戦没画学生慰霊美術館である無言館の設立にも尽力しました。著書『四百字のデッサン』や雑誌連載「アトリエ日記」など文筆の仕事でも知られています。

当館では1930年代から2020年代までの野見山作品を収蔵しています。本展では、美術学校から留学までの前期と帰国後から晩年までの後期に分けて展覧し、具象と抽象のあわいを色彩豊かに探求した野見山の画業の軌跡を辿ります。併せて、インタビュー映像やアトリエ内部の記録、愛用の品々等によりアトリエでの野見山の日々の暮らしと制作の在り様を紹介します。

絶筆作品を含む油彩画や版画、ドローイングおよび関連資料等、約70点を通じて野見山の芸術活動の一端をご覧くださいます。

観覧料：一般500円 ※会場は2階展示室のみ



左上 ____ 《マドの肖像》1942年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
 左下 ____ 《遠い空から》2009年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
 右上 ____ 《ある日》1982年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
 右下 ____ 《丘(クレーン)》1957年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館

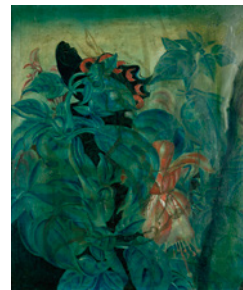
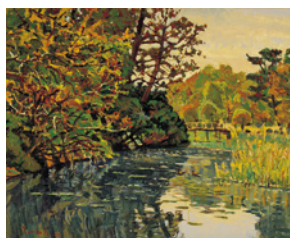
会期：2025年3月7日[金] — 3月30日[日]

練馬区立美術館は1985年10月に開館しました。2025年、40周年を迎えます。これを記念し、美術館ゆかりのアーティストや新旧の学芸員等によるトークイベントとミニコンサートを開催します。

当館が40年の間に開催した展覧会は200本以上(所蔵品展含む)、当初1点のみであった所蔵品は7,500点(寄託含む)あまりとなりました。美術館の重要な役割であるコレクションの形成と展覧会開催の背景には、開館前から現在まで、数多くの関係者による様々な対話の積み重ねがあります。連続トークでは、当館の歴史を紡いできた多様な関係者が集い、準備室時代の思い出から、初期の展覧会の裏話、コレクション形成の軸となった作家作品や、近年話題となった展覧会まで、コレクション及び展覧会について振り返ります。また同時に未来の美術館についてもトークを展開していきます。

会場の2階展示室では、第1号の収蔵作品から、近年話題となった展覧会の出品作まで、トークに合わせた20点程度の所蔵品や資料展示も行います。

トーク、作品観覧料：無料 ※会場は2階展示室のみ



左上 ____ 中村善策《池畔新緑》1978年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
 左下 ____ 木村荘八《静物》1919年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
 右上 ____ 豊光《花と蝶》1941-42年頃 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
 右下 ____ 松岡映丘《さつきまつ浜村》1928年 絹本着色 練馬区立美術館

新収蔵品紹介

作品：計 27 件（購入 2 件・寄贈 25 件）



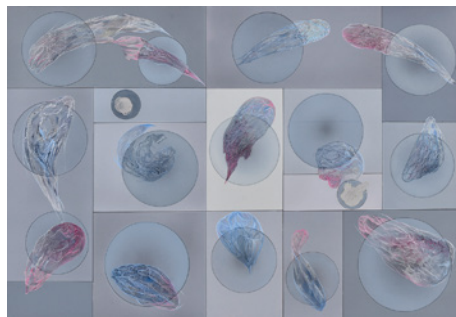
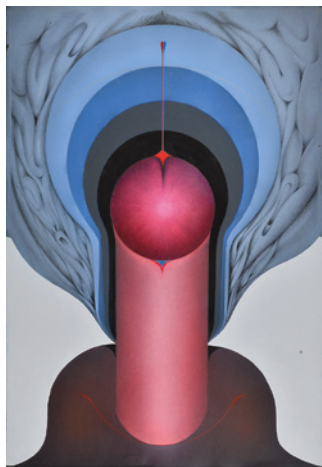
福田美蘭
(ふくだみらん・1963 生)
新収蔵作品 14 件



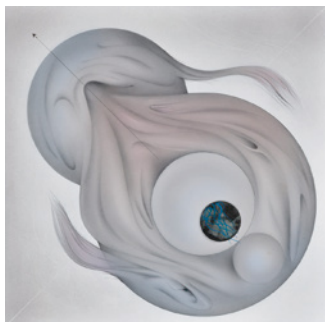
上 ____ 《つるバラ「エドゥアール・マネ」》 2022 年 アクリル・パネル 227.2 × 181.8cm (購入)
下 ____ 《ゼレンスキー大統領》 2022 年 アクリル・パネル 128.5 × 227.2cm

上 ____ 《テュイルリー公園の音楽会》 2022 年 アクリル・パネル 76 × 118cm
中 ____ 《LEGO Flower Bouquet》 2022 年 アクリル・パネル 162 × 130.3cm
下 ____ 《ミュージアムショップのマネ》 2022 年 アクリル・パネル 130.3 × 162.1cm

池田龍雄
 (いけだ たつお・1928-2020)
 新収蔵作品 10 件



《BRAHMAN 第8章 晶華》1985年 アクリル・紙 54.7 × 79cm



上 ____ 《BRAHMAN 第1章 梵天》1974年 アクリル・紙 79.2 × 54.5cm
 中 ____ 《BRAHMAN 第2章 宇宙卵》1976年 アクリル・紙 41 × 39.5cm
 下 ____ 《BRAHMAN 第3章 球体浮遊》1978年 アクリル・紙 54.5 × 79cm

西村貴久子
 (にしむら きくこ・1905-1982)
 新収蔵作品 1 件



《寛城子露人街(新京)》1935年 油彩・キャンバス 22 × 27cm

平子雄一
(ひらこ ゆういち・1982生)
新収蔵作品 2件



上 《inheritance, metamorphosis, rebirth》2022年 アクリル・キャンバス 333.3×994cm
竹内真氏寄贈 写真撮影:坂本理

下 《inheritance, metamorphosis, rebirth への習作》2022年 アクリル・キャンバス 100×300cm (購入)

教育普及事業のご案内

美術館の核となる展覧会及び所蔵品への理解を深め、楽しんでいただくために、様々な入口を用意しています。子どもから大人の方までふるってご参加ください。

※ギャラリートーク、ロビーでのコンサート・パフォーマンス以外は、ほとんどが事前申込制です。

※各事業の詳細は、ねりま区報(30名以上の募集事業)および当館ホームページに

開催1ヶ月程前から掲載します。また図書館などの区内施設にてチラシを配布しています。

＼ 展覧会を様々な角度から楽しむ ／

展覧会関連事業

ギャラリートーク、実技講座・ワークショップ、講演会、
コンサート・パフォーマンス、鑑賞プログラム「トコトコ美術館」
(3～6歳の未就学児+保護者対象 年3回)



ギャラリートーク

担当学芸員やゲストが展示室を回りながら展覧会についてお話しします。

コンサート

ロビーには1877年製のスタインウェイ社のピアノがあり、展覧会に合わせたコンサートが開かれます。



鑑賞プログラム 「トコトコ美術館」

テーマに合わせた作品鑑賞と絵本の読み聞かせ、工作をします。
初めての美術館に!



実技講座

展覧会に合わせて絵画や版画、彫刻、工芸など本格的な作品作りに取り組みます。



＼ 人が集う場作り ／

美術館を楽しむワークショップ

館内探検(5歳～小学2年生対象、8月開催)

所蔵品カードで遊ぼう!(小学生～大人対象、12月開催)

「美術館をつかまえる!? 館内探検とフロッタージュ」

毎年夏休みにバックヤードの探検を行っています。フロッタージュしながら館内を巡り、採取した用紙を綴じて美術館標本として持ち帰ります。



＼ 美術館の施設及び展覧会を学校の学習に ／

スクールプログラム

① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム
内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。



美術館サポーターの活動

現在23名がサポーターとして活動しています。
主な活動は、イベントの会場受付、
美術関連記事の新聞切抜きなどです。

アート de ねりまち

練馬区立美術館では、昨年度より美術を通してまちを楽しむプロジェクト「アート de ねりまち」を開始しました。美術館周辺のまちを舞台とし、それぞれの展覧会をちょっと違う角度から眺め楽しむ事業です。今年度は3本の展覧会を糸口に、美術と地域の魅力を双方から探ります。

春

〈三島喜美代—未来への記憶展〉関連ワークショップ
「あなただけのさすらいなもの
樹脂粘土で作る小さなキャラクター」

6月23日(日) 10:30～15:00

講師：濱田有美(造形作家)

夏

〈平田晃久—人間の波打ちぎわ展〉関連ワークショップ

※詳細は決まりしだい当館ホームページ等でご案内いたします。

秋

〈追悼 野見山暁治展〉関連まちあるき

※詳細は決まりしだい当館ホームページ等でご案内いたします。

アートマルシェ

開催日未定

- ・当日受付のワークショップやパフォーマンス
- ・美術館と美術の森緑地のセルフ鑑賞シート配布 など

- 各事業の参加対象年齢、人数、参加費は未定です。
- 各事業はそれぞれ1か月半程前に参加者の募集を開始します。申込み切は各事業の2週間前の金曜日です。詳細は随時当館ホームページまたはねりま区報をご覧ください。
- 春夏秋の事業の参加には、当日の展覧会鑑賞券が必要です。

昨年度の活動記録



〈大沢昌助展〉関連

「大沢作品と公園の植物を遭遇させてコラージュ作品を作ろう！」講師：弓指寛治

〈植物展〉関連

「外で植物を見つけて絵に描こう！」講師：伊藤千恵



〈宇川直宏展〉関連

「練馬の新しい風景を発見しよう」講師：担当学芸員



〈古賀忠雄展〉関連

「野外彫刻とまちの記憶を巡ろう」講師：担当学芸員

アートマルシェの様子



2023年度の集大成として美術館とまちを楽しむ2日間のイベントを開催しました。

公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、毎年1回「練馬区民美術展」を開催しています。2024年度は、11月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、11月1日号(予定)のねりま区報に掲載の応募方法または区民美術展応募チラシ、当館ホームページをご覧ください。

第56回 練馬区民美術展

会期

前期: 2025年2月13日(木)～18日(火)
後期: 2025年2月23日(日・祝)～28日(金)

応募資格

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

募集作品について(予定)

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)
日本画(水墨など)
彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染織、和紙絵、押し花絵、切り絵など)



展示風景(これまでの様子)

貸出施設について

美術への関心と理解をより深めるための諸活動や、創作及び作品発表等にご利用いただくことを目的に館内の施設を貸出しています。ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。
1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

名称	面積	利用時間	使用料
2階 一般展示室	85.5㎡	10:00-18:00	4,000円/日

※ご利用の6ヶ月前に利用申込の抽選会を行います。抽選会の日程および詳細は当館ホームページをご確認ください。

創作室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、サークル等に貸出します。
午前・午後を単位として、1ヶ月に4枠まで利用できます。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	110㎡	30名	午前 10:00-13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、 イーゼル、ホワイトボード、 プレス機、石膏モデル 等
			午後 14:00-18:00	1,600円	

※練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室

創作室

施設案内

予約制ではありません。
当日、チケットカウンターでチケットをお求めください。
(無料展は直接展示室へお越しください)

開館時間 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週月曜日(ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)、
年末年始(12月29日~1月3日)、展示替えなどによる準備期間中

観覧料 展覧会により異なります。詳しくは各展覧会ページをご覧ください。
なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料で
ご覧いただけます。(年齢等の確認できるものを提示した場合に限る)

図録の販売 展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で
販売しております。ご来館の難しい方は、通信販売の取扱いもござ
いますので、問い合わせください。

バリアフリー

- ・当館の展示室は2階・3階にございます。
館内にはエレベーターを設置しております。
- ・車椅子で利用できるトイレを設置しております。
- ・ベビーシート(おむつ交換台)・ベビーチェアを設置しております。
- ・障害者の方は、当館のご利用に限り
駐車場をお貸しできます。(事前予約制)
- ・館内で利用いただける車椅子・ベビーカーを
用意しております。(数に限りがあります)
- ・授乳室を設置しております。
- ・受付に筆談ボードを用意しております。

X(旧Twitter)をフォローしませんか?

開幕前の準備状況から学芸員の展覧会こぼれ話など、
展覧会がより楽しくなる情報をお届けします!
展示替休館の情報や混雑時には館内状況もお知らせします!



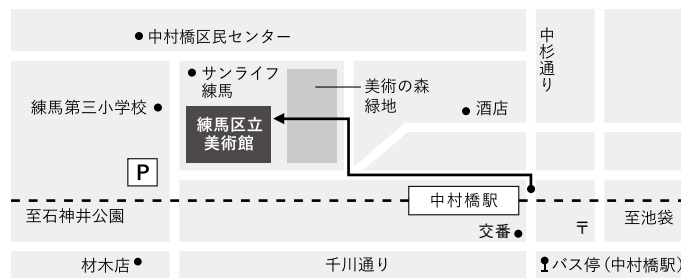
QRコードを読み込んで
フォローしてね!!
@nerima_museum

交通案内

鉄道 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

バス 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口 — 中村橋駅《阿01》系統終点
荻窪駅北口 — 中村橋駅《荻06》系統終点
荻窪駅北口 — 練馬駅《荻07》系統「中村橋駅」下車



※駐車場はございません。美術館周辺のコインパーキング(有料)をご利用ください。

※障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。

隣接する施設

貫井図書館(1階)
練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。

美術の森緑地

美術館の前庭にあたる「練馬区立美術の森緑地」には、幻想美術動物園をコンセプトに、カラフルな動物を中心とした20種類32体の彫刻が設置されています。



〒176-0021 東京都練馬区貫井1-36-16 TEL: 03-3577-1821
<https://www.neribun.or.jp/museum.html>

(公益財団法人練馬区文化振興協会が練馬区立美術館の管理運営を行っています)

練馬区立美術館ニュース 第28号

発行: 練馬区立美術館 発行年月日: 2024(令和6)年4月1日
印刷: 山田写真製版所 デザイン: 星野哲也

